



## パパとママと子供のための 空間、キッズカフェ

韓国の低い出生率（女性一人当たり1.49名、2009年基準）にも関わらず、キッズ関連産業は、ここ10年の間、毎度20パーセント位の成長率を見せていると言われています。

特に、子供のための職業体験施設があったり、親子で一緒に遊ぶことができたり、親子で演劇や紙芝居を見ることができたり、お茶と食事を取ることができるキッズカフェは、大盛況です。

韓国国内では、キッズカフェが次々とオープンしており、今ではどの地域に行っても、すぐに見つけることができます。

キッズカフェには、子供のための滑り台、ジャングルジム、汽車の乗り物、絵本などの基本的な設備はもちろん、誕生日会のためのパーティールーム、ミニサッカー場、風船ルーム、砂場、職業体験の施設など、遊びと教育のためのコーナーがいっぱいあります。キッズカフェは基本的には屋内施設ですが、カフェによっては屋内の遊び場と外の遊び場



を備えているところもあります。

親のためには、座り心地のよいソファに美味しいお茶と食事があり、子供が遊んでいる間は自分の時間を楽しむことができます。

また、子供が遊ぶ空間には、いたるところにカメラが設置されており、親の休憩空間には大型のモニターが設置され、子供が遊ぶ様子をチェックすることができます。

提供される料理にもこだわりがあり、子供の健康のために食品添加物などは使わず調理されています。衛生面も配慮が行き届いており、何時間かごとに施設の消毒時間が決まっています、区域を分けて消毒が行われています。

先日、韓国の実家を訪れた時、噂のキッズカフェに3歳の息子を連れて、母と妹と行きました。

息子は、目新しい施設を見ると、とたんに興奮しはじめ、靴を脱ぎ捨てて、サッカー場に



走って行きました。カフェの担当者が子供の喧嘩を仲裁するなど、子供の面倒をある程度見てくれますので、母と妹と私はソファに座り、時々モニターで息子の様子をチェックしながら、お茶を飲み、久しぶりにゆっくり話をすることができました。時々、汗だくになった息子がお茶を求めて私たちのところにやってきましたが、お茶を飲み終わればすぐにサッカールームに戻って行きました。



健康を考えた料理は、子供のメニューも大人のメニューも充実しており、息子も大人も大満足でした。料金は、子供2時間で8,000ウォン、大人は入場料無料、食事一品あたり10,000ウォンから20,000ウォン程度でしたので、お手ごろです。

さらに、思い切り遊んだ息子は、家でぐっすり昼寝をしてくれたので、一石三鳥ともいえるでしょう。

ところで、政府のデジョン庁舎（特許庁所在庁舎）内には職員の子供のための保育園があります。

一歳から就学前までの児童を預かる施設です。バイオリン、ピアノ、バレエ、サッカー、英語の特別教育プログラムもあり、教育プログラムも充実しています。



さらに、各教室とグラウンドにもカメラが設置されており、その画像をリアルタイムでネットに配信しています。親は、時々、ネットでわが子の遊び様子もチェックでき、安心して仕事できるそうです。

共働きの知り合いの審査官は、子供と一緒に出勤し一緒に帰ることができて助かるという、満足している様子でした。

勿論、韓国においても、職場内に保育施設があるのは珍しく、大企業などにもそのような施設はほとんどないのが現状なので、羨ましく思いました。

さて、韓国も日本も低い出産率で悩んでいますね。子育てに優しい施設がさらに増えることを願っています。

## 筆者紹介

朴沼泳（ばく・そよん）

2001年38回韓国弁理士試験合格。現在は新樹グローバル・アイビー特許業務法人の顧問を務める。ソウル生まれ、2003年から現在まで日本在住。

韓国の中央大学の政治外交学科および大阪工業大学の電子情報通信学科を卒業。趣味はダンス、好きな食べ物はチラシ寿司、キムチチゲ。好きな言葉は「修身齊家治國平天下」。